

# アブサロムの反逆

2026.7.8

聖書に学ぶ 48

Ⅱサムエル記 13～15章

新聖歌 146・315

人を赦すとか、赦さないとかの問題は、何時の時代にもある難題です。それが家族間で起きた場合、その対応を間違えると、大変な結果を生むことになりかねません。

また悲しい事にそれは、ダビデがバテ・シェバと罪を犯した時、主なる神がナタンに語らせた預言の成就となってしまいます（Ⅱサムエル記 12:11）。

## 今日の学びの要点

罪の結果は、幸いな家族の中に不和を引き起こします。過去の痛ましい経験は、同様の罪を犯した者を裁くことができません。異母兄を赦せなくて殺した弟アブサロム、逃げたアブサロムを赦そうとしながら、赦せないダビデでした。どうしようもない人間の私たちは、仲保者であるキリストによらなければ、本当の解決を得る事ができません。

## I、父ダビデに対する不満 （Ⅱサムエル記 15:1～6）

1、アブサロムは裁きを願う者たちに、王に代わって裁きを始めました。彼は父ダビデに対して不満に溢れています。（Ⅱサムエル記 15:3）

2、アブサロムの不満 1：父ダビデは、アムノンを裁かなかった。

※この異母兄弟については、Ⅱサムエル記 3:2～5 を参照。

①長男アムノンが、三男アブサロムの妹タマルに問題を起こしてしまいました。ダビデはどうしたのでしょうか。（Ⅱサムエル記 13:5～7、箴言 16:9）

②妹タマルの件で、アブサロムは何年くらい兄アムノンを憎んでいましたか。  
（Ⅱサムエル記 13:23、箴言 10:12：憎しみは殺意と変わる）

③アブサロムが兄弟たちを招いて、羊毛の刈取り祝いをしたとき、何が起きましたか。（Ⅱサムエル記 13:37～39、3:3） ※アブサロムはゲシュルの王タルマイの孫。

アブサロムの不満 2：自分に対しても、ハッキリした裁きをしないで、長い間向き合わず、ほっておかれていた。  
（5年＝ゲシュルで3年、エルサレムで2年）

## Ⅱ、心の葛藤に惑わされるダビデ (Ⅱサムエル記 14 章)

1、申命記 19 : 11~12、21 を開きましょう。本来、殺人を犯した者はどうされなければなりませんか。父であり王であるダビデはどう思っていたのでしょうか。

2、将軍ヨアブはテコアの女を使って、ダビデ王に1つの話をさせ、アブサロムをエルサレムに戻させました。(Ⅱサムエル記 14:1~33)

テコアの女の話 : 息子同士の争い→ 片方を殺した→ 親族は残った息子を死刑にするという

↳ 残った息子まで失いたくない… 親心 —— ダビデは残った息子を守ると約束した。

3、ダビデの心は、父なる神の心と重なります。

◎ 神様も私たちが赦したいのに、赦せない… そのために、どうされたのでしょうか。

Ⅱサムエル記 14:14 = 預言的な言葉 神のご計画 : ローマ 5:8

## Ⅲ、アブサロムの反逆 (Ⅱサムエル記 15:1~31)

1、アブサロムがダビデを欺し、ヘブロンで王になったと聞いたとき、ダビデはどういう決断をしましたか。(Ⅱサムエル記 15:14)

2、祭司ツァドクに、ダビデはエルサレムに残るように何と仰いますか。ここから、ダビデの信仰をみましょう。

(Ⅱサムエル記 15:25、詩篇 3 : 1-6、詩篇 55 : 4~8、参照)

3、アブサロムの側に有力な賢者アヒトフェルが付いたと聞いたとき、ダビデはどう祈りましたか。(Ⅱサムエル記 15:31)